

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	高齢者福祉	授業コード	E041601
担当教員名	奥田 憲昭		
配当学年	2年	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2.0
履修上の注意または履修条件			
受講心得	講義をよく聞くとともに、教科書を用いて予習・復習を行い、なんとも及復予習を行つこと。私語は禁止する。		
教科書	『高齢者に対する支援と介護保険制度』新・社会福祉士養成講座		
参考文献及び指定図書	教室で紹介する		
関連科目	ソーシャルワークのための社会学、保健医療サービス、介護概論		

授業の目的	社会福祉士試験を受験し、合格できる力を付ける。
授業の概要	高齢者の特性、高齢者のニーズ、高齢者保健福祉の歴史、高齢者支援の関係法規、介護保険制度の基本的枠組みや仕組み、介護保険サービスの体系、高齢者を支援する組織と役割、高齢者支援の方法と実際、高齢者を支援する専門職の役割と実際について講義する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：高齢者の特性	予習：教科書第1章1頁～27頁
1. 高齢者の社会的理解、2. 高齢者の身体的理解、3. 高齢者の精神的理解について学修する。	頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第2週：少子高齢社会と社会的問題	予習：教科書第2章29頁～40
1. 少子高齢社会の到来、2. 少子高齢化の要因、3. 人口高齢化の地域間格差、4. 高齢者を取り巻く家族の状況について学修する。	頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第3週：高齢者を取り巻く諸問題	予習：教科書第2章41頁～59
1. 高齢者の健康問題、2. 高齢者の介護問題、高齢者の経済的問題、高齢者の生活意識の諸問題について学修する。	頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第4週：高齢者保健福祉の発展	予習：教科書第3章72頁～85
1. 近代の高齢者福祉、2. 戦後から昭和30年代の高齢者保健福祉、3. 昭和40～60年代の高齢者保健福祉、4. 平成の高齢者保健福祉について学修する。	頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第5週：高齢者支援の関係法規	予習：教科書第4章87頁～122
1. 高齢者保健福祉の法体系、2. 老人福祉法、3. 高齢者の医療確保に関する法律、4. 高齢者虐待防止法について学修する。	頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第6週：介護保険制度の基本的枠組みⅠ	予習：教科書第5章123頁～
1. 介護保険制度の全体像、2. 介護保険制度の目的と理念について学修する。	136頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第7週：介護保険制度の基本的枠組みⅡ	予習：教科書第5章137頁～
1. 保険財政、2. 保険者と被保険者、3. 介護保険制度の最近の動向について学修する。中間試験について説明。	152頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第8週：中間確認試験	
第1週から第7週までを範囲として試験を行い、試験終了後に解説する。	試験勉強をする。
第9週：介護保険制度の仕組みⅠ	予習：教科書第6章153頁～
1. 要介護認定の仕組みとプロセス、2. 保険給付、3. 介護報酬について学修する。	166頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第10週：介護保険制度の仕組みⅡ	予習：教科書第6章167頁～
1. 地域支援事業、2. 介護保険事業計画、3. サービスの質を確保するための仕組みについて学修する。	178頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第11週：介護保険サービスの体系	予習：教科書第7章179頁～

1. 介護保険サービスにおける専門職の役割と実際、2. 居宅サービス、3. 施設サービス、4. 介護予防サービス、5. 地域密着型サービスについて学修する。		178頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第12週：高齢者を支援する組織と役割		予習：教科書第8章205頁～
1. 行政機関の役割、2. 指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割、3. 地域包括支援センターの組織体系と役割、4. 社会福祉協議会、5. ボランティア団体・非営利民間活動について学修する。		234頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第13週：高齢者支援の方法と実際		予習：教科書第9章235頁～
1. 高齢者支援の方法、2. 介護保険法における連携と実際について学修する。		271頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第14週：高齢者を支援する専門職の役割と実際		予習：教科書第10章273頁～
1. 専門職の役割と実際、2. 専門職による協働、3. 専門職の倫理について学修する。		288頁を読んでおく。復習：もう一度教科書を読む。
第15週：		試験勉強をする
1. 第9週から第14週までの補足説明。2. 試験について説明。		
第16週：期末試験		試験勉強をする
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教科書で予習をし、講義をよく聞き、復習をする。
【知識・理解】	講義で取り上げた内容を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	授業で与えられた課題をまとめる。
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	40点			
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	50点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	出席・中間試験・期末試験で総合的に評価する。
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	